物産雑説

沖縄物産一班 乙 十三

A 00
5764

沖縄物産一班

東京大学総合図書館

A00
5264

東京帝國大學圖書

B 45224

No.60

明治十六年十月

田中芳男

沖縄物産一班

沖縄物産一班

東京大学総合図書館

沖縄物産一斑

農商務四等属山口縉介ヨリ本省ニ報道セシ西海農區報告第十號明治十二年九月三日沖縄縣八重山島山林ノ景況ニ添タル樹葉木材等ヲ印刷シ報告書中ニ就キ其品ニ属スル説ヲ抜抄シ傍ラ自説ヲ加ヘタルモノナリ故ニ一般ノ景況ハ該報告中ニ讓リテ茲ニ省ク而シテ報告中ニ説アリテ其品ナキ者ハ　赤樹　黄楊　松　楪ノ栥　福木　ヘゴ　桄榔（ツグ）藤ゾ　等ニシテ　品アリテ説ナク又材ナキモノハ　ユウナ、オカバ　ノ二品ナリ　説アリ実物アリテ載セザルハ　米（白毛稗　赤毛稗　白毛糯ト赤米ニシテ皆八重山島ノ石垣島白保村ノ産）ノ二品ナリ

赤米ハ　タメウボシ　ト同物ナリ

明治十六年十月二十一日

田中芳男識

此書ニ印刷スル葉ハ該報告ニ添ヘタルモノナレ𪜈唯乾枯シタル侭ノ者ナルニヨリ披閲ニ便ナラズ因テ博物局天産課ニ於テ水浸シテ整理シ始テ乾腊葉トシ厚帋ニ貼附シタルモノナレバ貼附ニ用ヒシ紙ノ細條ノ痕ヲ葉面ニ現ハスモノ多シ看者之ヲ諒セヨ

朱檀

八重山島ノ内石垣島 野底村ヨリ伊原間(イハルマ)村ニ跨ル山林凡二里餘ノ間ニ限リ生ス 四日向山中ヲ跋陟シテ四五十本ヲ見出シタリ 甚大ナルハ周囲四尺小ナルハ壱尺七八寸アリ 此樹ニ傷ルトキハ丹汁ヲ出スコト恰モ鮮血ヲ流スカ如シ 土人此材ノ貴キヲ知ラズ故ニ踏傷スルモノハ牽子刀痕アリ 是レ土人ノ戯ニナスモノナリ

葉鱗状互生一柄ニ九枚ヲ着ク
是ハ面ヲ印スモノナリ

朱檀

按ニ英華字典ニ red sandal wood
紫檀又稱檀トアリ バルフー氏植物書ニ
Pterocarpus Santalinus
トアリ ラインド氏及ヒ
ウヲドン氏ノ書ニハ要名
red sandal wood
トアリ 東印度産ノ常緑
喬木ニシテ荳科ニ属ス
其材ノ染等ニ用ユ
紫檀ニ符合ス
但シ白檀ハ檀香
科ニ属シ別物ナリ
混ズル勿レ

枝

河原田氏曰
石垣島村落
及所ハ人到ルベシ
ト雖モ山林ハ樹木
繁茂シテ瘴気多
ク跋陟スレバ必ズ病ム
故ニ良材アルモ出スコト難キニ
ヨリ亦乱伐ノ憂モ少シ

材ノ横截面

外層
灰白色

内部
赤褐色

八重山島在勤ノ
巡査ヨリ所望シ
得タルモノニテ産地
未詳ナリトス

縦割面ノ見ニ甚タ美観 其色殊ニ艶麗ナリ

外皮付材横截面 中心赤褐色 外層灰色

石垣島 伊原間村産

河原田氏曰 此樹ヲ切レバ血様ノ汁出ルコアリ
山神崇リナストテ旧来切ラザリシ由云ヘト
又曰 沖縄島中何レノ地ニモ生シヽ 八重山ノ
如キハ大木ナシ

外皮ノ面
灰色

中部
赤褐
色

皮付ノ材 横截面

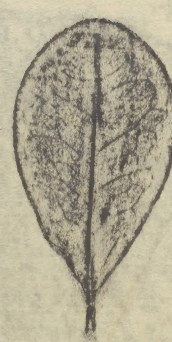
石垣島
伊原間村
ノ産

黒木（コツタン）

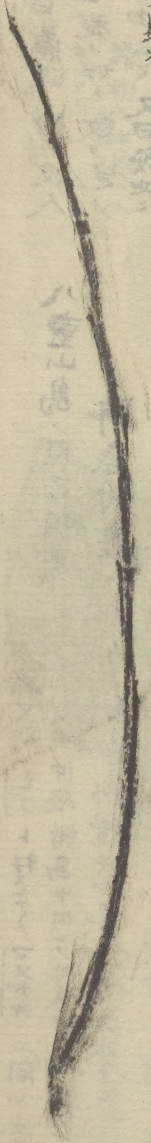
八重山島ノ内
石垣島 崎枝（キエダ）村 平久保（ヒラクボ）村ニアリ

按スルニ 黒木ハ 柿ト同属 其材心ノ黒キハ
猶 柿心黒木ノ如シ 唯葉小ク常緑ナリ △

葉形倒蛋形ニテ全縁 厚質ナリ



他ハ皆面ヲ出ス此葉ハ背ヲ出セリ

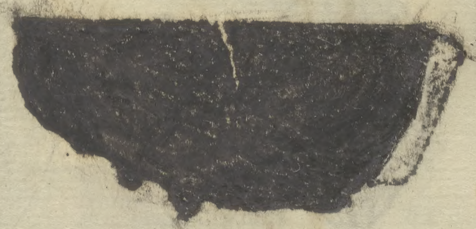


△ 曾ノ謂ヒシ所ノ腊葉ヲ見ルニ柿
ノ類ニテ葉モ少シク ノ如ク実ハ
マタガキノ如シ 又実モ葉モ大ニシテ
印度産烏木ニ似タルモノヽ見
腊カナ 甚材ヲ見ズ

河原田氏曰藩政ノ時ハ役人来リテ粗㮔ノ如ク数ヲ定メテ切リ出ニテ又曰該地ニ於テ黒檀トハ云ハズ黒柳ト称シ床縁ニ用ヒ八重山ヨリ来ナリ△

八重山島ノ内石垣島
野底村産

△又別ニエノブト称スアリ マメガキ ニ同シ ニテ
又曰沖縄諸島中何レノ地ニモ生スレド八重山島ノ如キ大木ナシ



枯木ノ朽残タルモノハ横截面深黒色堅実美良ナリ

木質ハ崎枝村ヲ佳トス大ナルモノハ凡ソ三尺余
周囲アリテ樹数ハ限リナシ平久保村ハ葉木
モ亦多シ 又西表島字裏村ノ山林ニ最多クアリ
崎山村鹿野川村之ニ次ク大ナルハ周囲九尺余アリ水気少キ地ニ生ス

椿（イス）

八重山島ノ内石垣島 伊原間（イハルマ）村ノ産 此樹ハ水気多キ地ニ生ス

又 桴海（フカイ）村ノ産ヲ佳トス

Distylium racemosum

柞（ユスノキ） 蚊母樹ナリ

此樹九州地方ニ自生多シ 此木ハ材質良好ナラズ 老木ノ中心ナラズ 又ハ三股ノ中心ハ堅実美麗ナリ 櫛工多ク之ヲ用ユ其他指物ニ緻用スルモノナリ

是ハ葉面ヲ印ス

東京ニテハ庭木垣ニナスノミ 大半ナシ

Bischofia javanica, Blume.
(Xanthoxylaceae)

アカキ

赤木ハ内地ヨリ剌 ト称スルモノニ均シ云々
八重山島ノ旅石垣島ノ
桴海(フクイ)村ヲ佳トス大ナルハ
周囲三尺六寸而シテ大ナルハ
摩子矮脚ニシテ
蔽翳ス
直立スル
モノハ稀ナ
嫩本ナリ
樹数限リ
ナシ内地ノ
黄櫨ノ如キ樹形ヲ
ナスモノニ大樹多シ
此樹ハ水気多キ地ニ生ス

按スルニ
是ハ薩摩産シャウベンノキ ドカ矢ナラ
曾テ赤木ノ大材ヲ博物局ヨリ
見ル幅二尺餘リ内部ト外
層殆ト同色ニメ鋒障アラシ
一柄上三葉ヲ着ク
其葉面ヲ印ス

河原田氏曰 チャニト赤木トハ
素ヨリ別ナリ混スル勿レ云々
延喜式ニ南島献赤木
トアルハ即是ナリ
又曰沖縄島中大木アリ

河原田氏曰 大隅薩摩ニ澤山アリ 方言ユスト 沖縄島中ニ大木アリ

外皮ノ面
灰褐色

皮付材横截面
忠ニ真ハ稍ヒ暗黒色トナル
外部ハ淡赤褐色ナリ

材質堅実緻密ナリ

伊原間村産

羽後国藤野氏ヨリ 本シモツイツ賀同月録

中ニ有之イビユ木 并 ワカブヌリあきらかにしノ俗名

中頭ヨリ来同様葉ナミアカキ アカキ俗名ト

相分ル依テ本ニ二三条甚中頭ニテ又此品

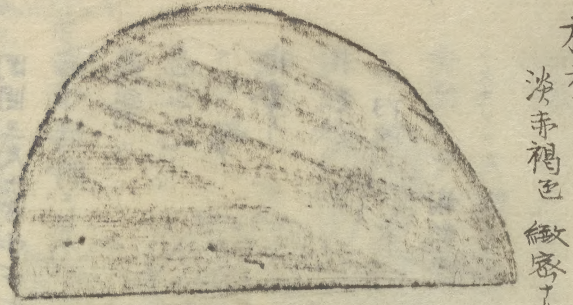
通ト為ノ目立柳様ノ楊梅科等ノ新用俗名

ナヲ定ル可ク相及ス之ヲ有候へし

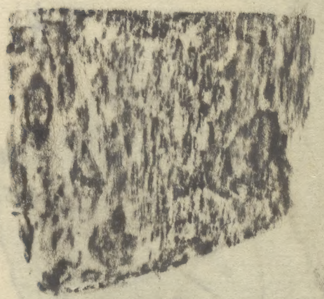
アカキ　Bischofia javanica, Blume

ヒロミノツホ 田代氏コヒー乃御用品　Xanthoxylaceae

皮付材 横截面 淡赤褐色 緻密ナリ



外皮ノ面 灰色内部ハ汚褐色



此樹ハ大戟科ニシテ互生ス こやうぐニ千ハ葉ヲ生シ 材下ナラン

アカキ 外国産ノ物ナラン

盆栽アリ 俗名ハ

ヒスロウチヤ ニギヤウニカ

トアリ

葉

背

面

八重山島ノ内 石垣島 平久保村ニ多ク又西表(イリモテ)島字西表村ノ山林ニ最多ク
崎山村 鹿野川村之ニ次ク 大ナルハ 五尺五寸ヨリ六尺五寸ノ周囲アリテ
甚夥敷限リナシ 水気多キ地ニ生ス

皮付材
横截面

草綿用紙

Diplospora viridiflora, DC

Cinchonaceae

ハマヂンテウ

Pentacaelium Chinense A. DC.

P. bontioides S. et Z.

Myoporaceae

明治十八年十月十二日

田中先生

徳田佐一 印

農商務省

此樹ハ大戟科ニメ互生ス こゃうべこ手ハ 葉材生 材下者

アカギ 外国産ノ材ニ似タリ

イジュ木

沖縄島本部(モトブ)、名護(ナゴ)、国頭(クニジャン)地方ニ多シ
樹相ハ頗ル楊梅ニ似ル国頭地方諸山
ハ推松楊梅等ト此樹ヲ林相ヲナセリ
大ナルハ周囲二三抱 長サ一丈位ハ直キ
モノアリ該地方テ之ヲ柱梁ノ材トス
八重山島ニモ亦此樹アリ

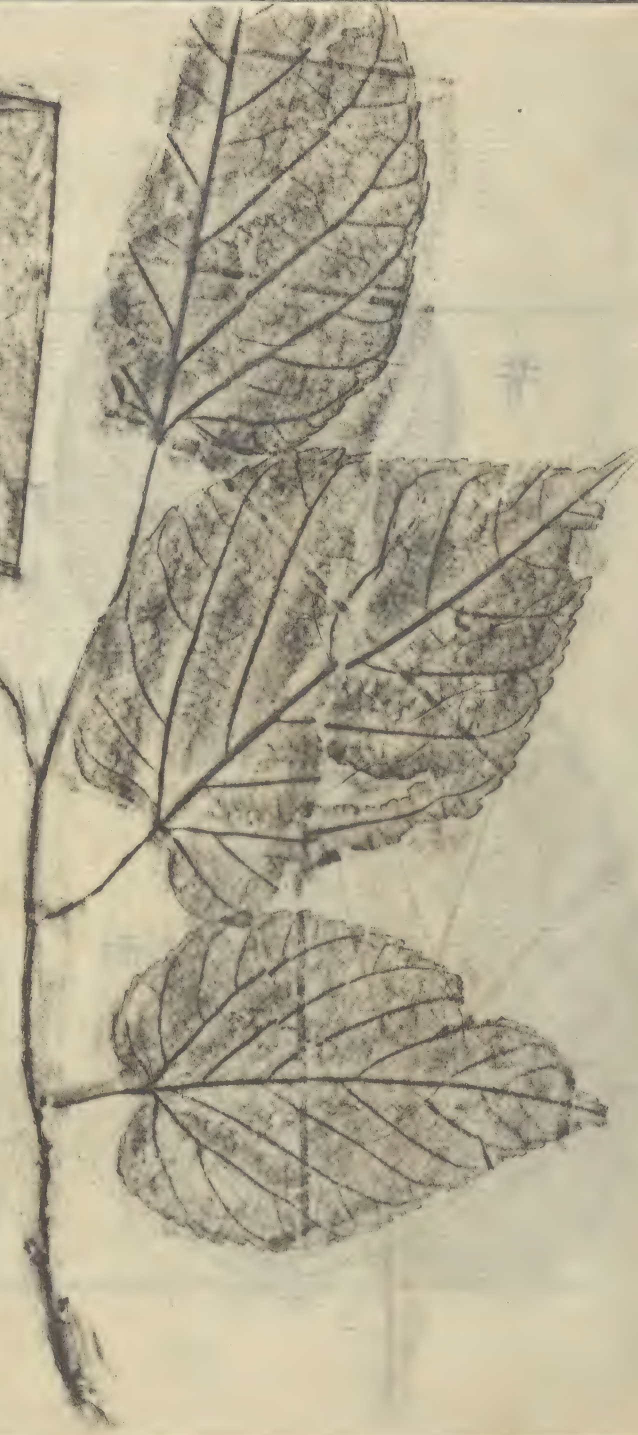
五瓣多雄蕊

葉ニ疎鋸歯アリ或ハナシ
葉背ノ色淡シ

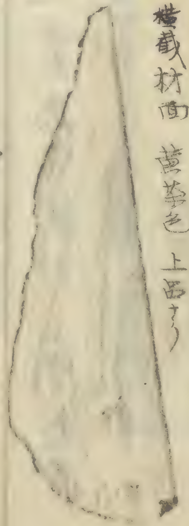
白藤武四 山茶科 Gordonia sp. 准ダイ

外皮面 灰黄色

横截面 中部黄色



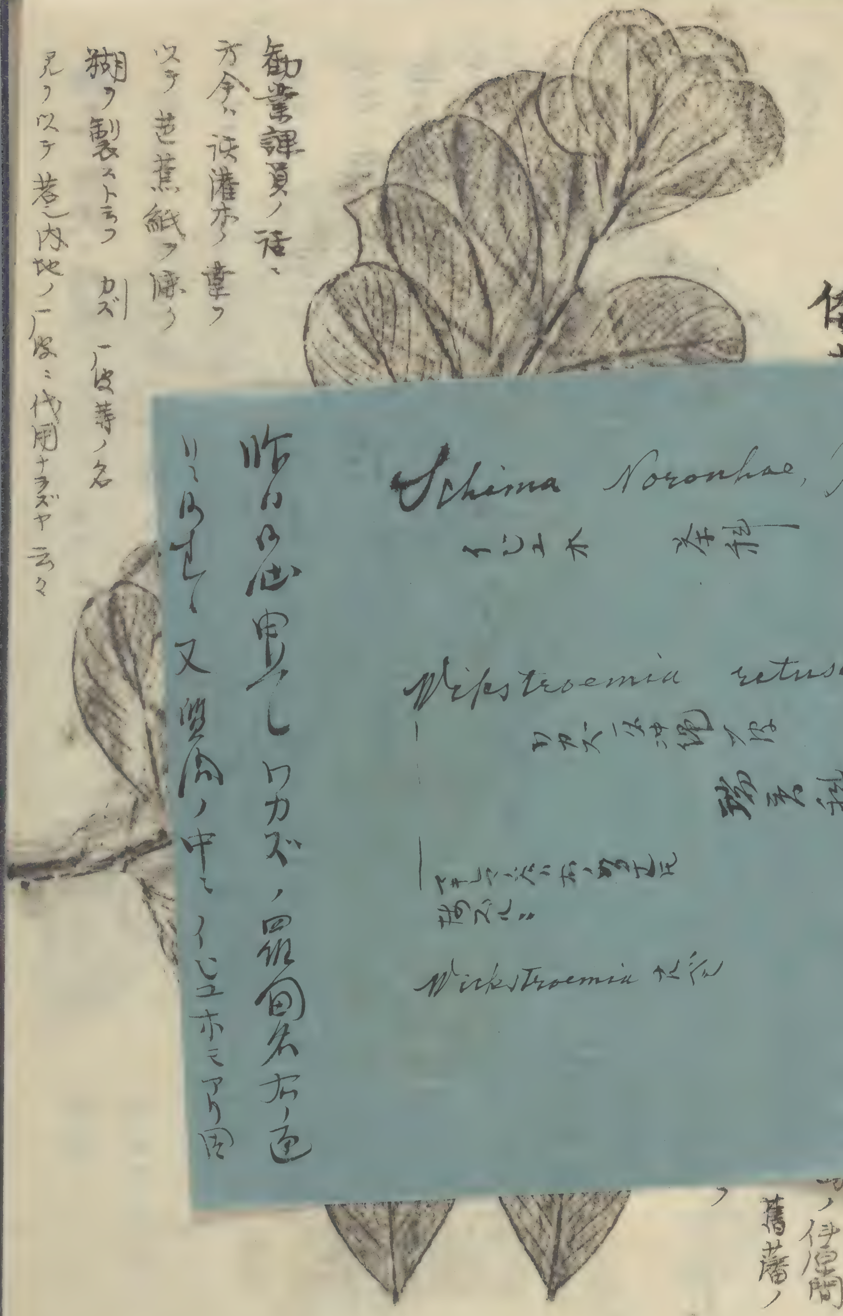
野底村産



横截材面 黄茶色 上品ナリ

樹皮黒色ロリスウイード 同物ナリ 両者ノ名ニ

勧業課員ノ話ニ
方今ハ渋灌木ノ葉ヲ
以テ芭蕉紙ヲ漉ク
糊ヲ製ストモ云フ カズ 別ニ皮等ノ名
見ヲ以テ 巻之内地ノ一度ニ代用ナラズヤ 云々



倭

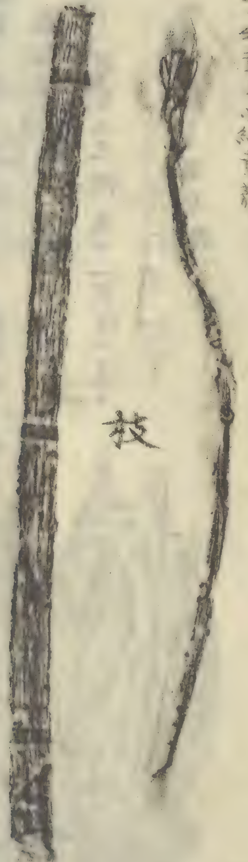
昨日御申越しワカズノ琉球名右ノ通
りに有之候 又前便ノ中ニ イヒユホニアリ候

Schima Noronhae, Reinw.
イジユ木 本州

Wikstroemia retusa, A. Gr.
リウキウ沖縄ノ
琉球 カンピ

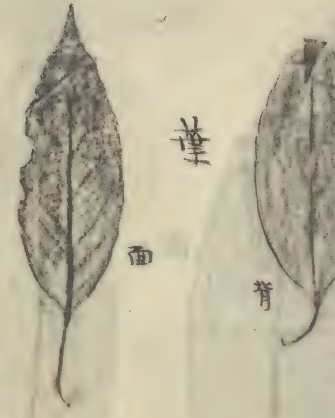
Wikstroemia

ノ伊原間（イバルマ）
舊藩ノ



枝

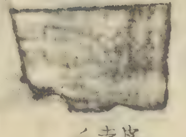
枝皺ハ毛青色小細黄斑ハ



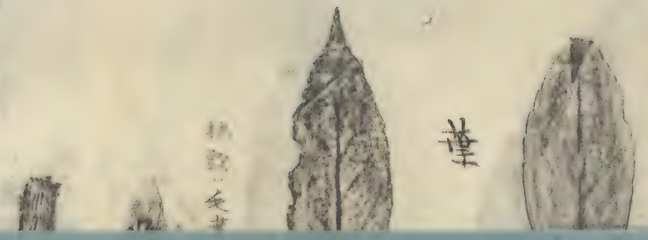
葉
面
背

皮
厚サ一分二三分

花



沖縄島本部（モトブ）山産
材ノ横截面
材色淡赤褐色
緻密ナリ
皮ノ表面



葉

テ大形ノ[illegible]モ見て也右武石氏被
命ノ書ニ[illegible]一寸見[illegible]ズ
[illegible]
[illegible]九月[illegible]

田中先生

[illegible]野[illegible]

花

沖縄島本部(モトブ)山産

材ノ横截面

皮ヲ去ル面

材色淡赤褐色
緻密ナリ

倭カズ 一名沖縄ノ皮

諸島到ル處少ニハアリ石垣島ノ伊原間(イバルマ)
白保両村ノ間ニ路傍ニテ採ル舊藩ノ
時ハ此皮ヲ以テ紙ヲ製シタリトニフ

背

面

勧業課員ノ話ニ
今ハ該灌木ノ葉ヲ
以テ芭蕉紙ヲ漉ク
糊ヲ製ストニフ カズ 別 一皮等ノ名
見ヲ以テ考ニ内地ノ一ノ皮ニ代用ナラズヤ云々

東京大学総合図書館

Paritium elatum. ?

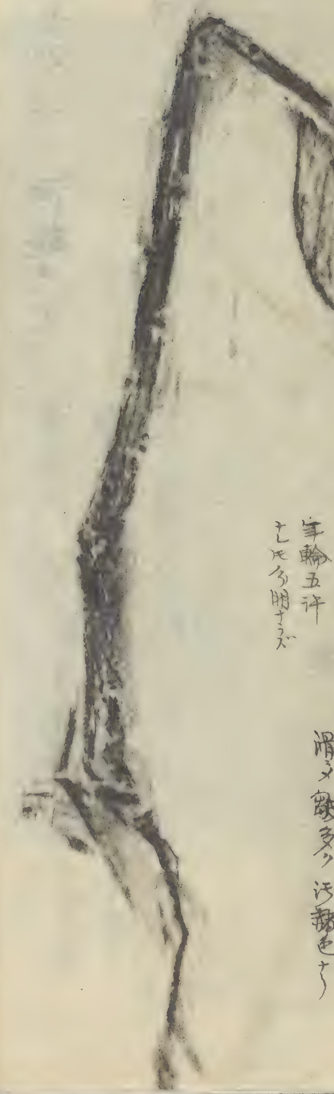
ユウナ

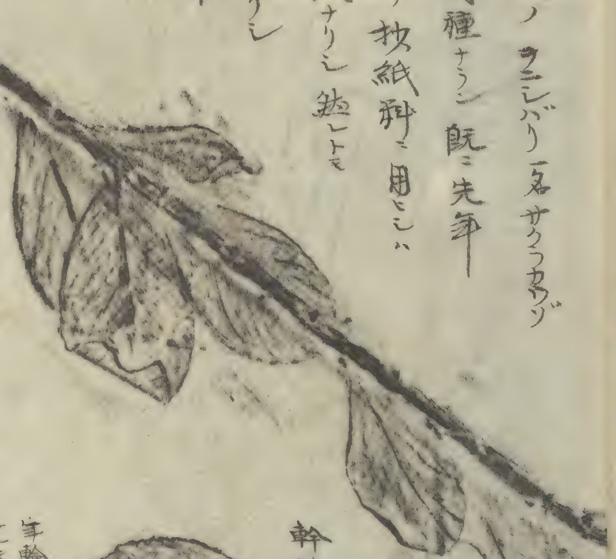
是ハ葉面ナレドモ背ハ粉白色ナリ此五孔ハ出蟲ニ係ル

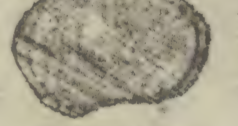
按スルニオホハマボウナラン此樹ハ熱国ニ多シ小笠原島ニアリ材ノ中部蒼黒紋条堅靭ナリ

Hibiscus ?

按スルニ形状ハ内地ノカニシバリ一名サクラカウゾニ似テ大ナリ或ハ同種ナラン既ニ先年小笠原島ヨリ来リ抄紙料ニ用ヒシハ内地産ヨリハ頗ル大ナリシ然レドモ此品ノ如クハ大ナラザリシ然レバ瑞香科ノ品ニ外ナラザルベクト思フ

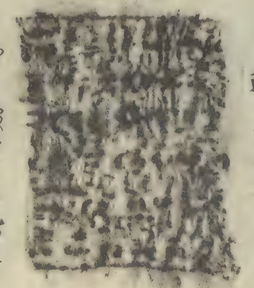






幹横截ノ面

年輪五許ナレドモ分明ナラズ



幹ノ外皮面

滑ニシテ皺多ク汚褐色ナリ

東京大学総合図書館

オカバ

此西ハ甲ニ葉モヨシ花ハ先ナス葉モノキニリ実ハ堅実ハ垢モシ

一柄ニ五葉ヲ
鰭出對生ス

テフガヒ又シンジュガヒ

珠母殻

琉球名 銀貝

久米島方言 シラカヒ

内面ヲ示ス

量七十五匁

八重山島ノ内黒島新城島等ニ多シト雖モ各所ニ散在シテ捕獲ニ便ナラズ一日ニ二百以上ヲ得ルハ難シトス宮古島諸属島ニモ亦多シ大サ内地九州地方ニ産スルモノヨリ三四倍ス

印度ヨリ来ルハ テフガヒ又アツガイ トヨブ 然ルニ琉球ニテ アツガイ ト云ハ シャコ ノコトナリ 混スル勿レ

按スルニ沖繩產珠母ハ內地ノ產スル小ナルモノト同屬ニシテ別ナリ故ニ形大ニシテ厚シ此見本ヨリ一層大ナルモノアリ色ハ外部ノ色ニ從ヒ內部銀光ハ黑色ヲ呈ス又黃色ノモノモアリトイフ又印度產ハ形較異ニシテ尚扁平黑ト黃トアリ黑慄黃慄トニ分ツ是ハ舊來螺鈿ノ用ニ供シ既ニ貴重セラレ維新前マデハ一枚ノ價金五兩以上ヲナセリトイフ沖繩產ノ世ニ出シハ該藩ヲ立テヨリ內地人ノ往返頻リナルヨリ漸ク人ニ知ラレ青慄ト云ヒ世上ニ出テ需用セラルヽニ至ル此說ハ河原田盛美氏ノ說ヲ聞キシコトアリキ今之ヲ畧ス

明治十六年十月二十一日

田中芳男識

西海農區報告第十號

四等屬山口矯介

明治十六年九月三日

沖繩縣八重山嶋山林ノ景況

本縣ハ用材ノ闕乏ヨリシテ舊藩中頗ル心ヲ殖林ニ用ヒ稍ミ林制ノ見ルヘキモノアリトイヘ𪜈其詳細ハ文獻口碑ニ徵シ目下縣廳ノ調査スルトコロニシテ一時巡回ノ身儀ニ其要領ヲ得ントスルハ決シテ為シ得ヘカラサルノ業ナルヲ以テ之ヲ他日ニ讓リ縣廳ノ報告ヲ得テ當ニ開申スヘシ今ハ巡回中見聞シタル八重山嶋山林ノ景況ヲ略叙シ附スルニ該山良材ノ見本ヲ以テス

石垣西表(イリオモテ)ノ兩嶋ハ峰巒秀抜シ樹木繁茂ス遠ク之ヲ望メハ翠蒼トシテ青氈ヲ覆フカ如ク絶テ岩石山骨ヲ見ス近ク之ニ接スレハ蓊欝タル喬木天日ヲ遮蔽シ陰ミ晝尚ホ暗

農商務省

東京大学総合図書館

ク炎暑ノ候トイヘトモ身躰労働スルニアラサレハ熱ヲ覚ヘス日常往来スル山麓ノ村路ハ自然ノ地勢ニ随テ僅カニ荊棘ヲ披キ巨木大樹ノ間ヲ曲行スル恰モ條ヲ縫フカ如シ開闢以来一人ノ登山セサルヲ以テ猶近ノ外更ニ攀ヅヘキノ路ナクシテ深ク山中ニ入ル能ハス嶋民ノ木材ヲ要スルトキハ唯タ人家ニ接近シタル山麓漫坡ニ採ルノミ然レトモ樹木多シテ需用少ナキヲ以テ絶テ伐採ノ跡ヲ見ス如此景況ナルヲ以テ嶋民ニ山中ノ模様ヲ問フトキハ唯タ答フルニ不知ヲ以テスルノミニシテ良材ノ種類及ヒ樹木ノ大小數量等ハ未タ究メタルモノアラスシテ今回本島ヲ巡回スルモ山林ノ景況ヲ詳ニスルヲ得サルヲ憾ムルノ際大坂府平民菊村治助ナルモノ一日逐尾シ来リ云フ樹木ノ検査アラハ傍観ヲ許セト山林局照會ニ依リ本島良材ノ見本ヲ採集スル御用ヲ以テ巡回セシハ八重山役所員ト同行シタルヲ以テ此ノ請求アリ因テ其人ノ由来ヲ聞クニ曩テ皇居御造營掛ヘ本嶋良材ノ献納ヲ請願シタル鹿児嶋商人川邉萬治郎ニ代リ本嶋ニ来リ石垣西表両嶋ノ諸山ヲ巡回シタルモノ也彼ヨリ聞キ得タルトコロノ概略ハ左ノ如シ

治助ノ本嶋ニ来リタルハ本年四月十日ニシテ矯介ノ之ニ面會シタルハ七月三日也其間石垣西表ノ両嶋ヲ巡回シタル日數ハ凡六十日ト云フ

朱檀ノ産スルハ石垣島ノ内野底村ヨリ伊原間村ニ跨ル山林凡二里餘ノ間ニ限ル四日間山中ヲ跋渉シテ四五十本ヲ見出シタリ其大ナルモノハ周囲四尺小ナルモノハ壱尺七八寸

因ニ云フ朱檀ヲ傷ルトキハ丹汁ヲ迸出シテ恰モ鮮血

農商務省

赤ハ無ノ誤

ヲ流スカ如シ土人朱檀ノ貴キヲ知ルモノナシ故ニ
路傍等ニシテ人目ニ觸レ易キ場所ニアルモノハ率
ネ刀痕アリ是レ土人ノ戯ニ出スルモノナリ
黒木ハ仝嶋ノ内崎枝村平久保村ニアリ木質ハ崎枝村
ヲ佳トス大ナルモノハ凡ツ三尺五寸回ニシテ木數ハ
限リナシ平久保村ハ桑木モ赤多シ
赤樫（アカガシ）ハ仝嶋ノ内名藏村ト白保村ノ間ナル山林凡ツ三
里ノ間ニ多シ大ナルモノハ周回凡ツ壹丈貳尺長サ凡
ツ八間直立ス八尺回リ前後ノモノハ凡ツ百七八十本
ヲ見受ケタリ土人ノ説ニ依レバ該樹ハ最モ多シ
赤木（内地ニテコチヤンビト稱スルモノニ均シ）樹ハ桴海（カイ）村ヲ佳トス赤木ノ大
ナルモノハ周回三尺六寸而シテ大ナルモノハ率ネ矮
脚ニシテ蔽翳ス直立スルモノハ總テ若木ナリ樹數限

ナシ（矯分見ルトコロニテモ内地ノ櫨ノ如キ形状ヲ為スモノニ大樹多シ）
黄楊ハ仝嶋ノ内川平伊原間ノ両村ニアリ周回壹尺二
寸ナルモノ壹本ヲ見ル他ハ八寸五歩ノヲ大トス
松材ハ中篠（ナカシノ）村ト桴海村ノ間里程凡ツ二里弱幅凡ツ二
十丁餘ノ地ニ多シ直立十間以上ニシテ幹ノ周回僅カ
ニ二尺五寸ニ満タサルモノアリ其大ナルモノハ周回
九尺ニ及フ此材ハ瀛船風帆船ノ檣ト為スヘシ
　矯分モ巡回中此地ヲ經過シ目撃シタルヲ以テ本文
ノ妄ナラサルヲ証ス而シテ直立スルモノハ率ネ中
間枝葉ナクシテ其直キ針ノ如ク梢頭僅カニ一蓋ノ
枝アリテ龍鱗最モ濤シ故ニ幹ノミヲ見ルトキハ内
地ノ楠ニ均フシテ仰テ針葉ヲ見ルニアラサレバ松
材タルヲ認ムル能ハス仝行シタル役所員ハ日向人

ナリシカ今人モ本嶋ノ松材ハ別種ト云フ然レハ回向地方ニ産スルモノトモ亦異ナルカ巡回ノ都合ニ依リ見本ヲ採ルヲ得スシテ一覧ニ供スル能ハサルヲ憾ム

桒木黒木ハ又タ西表嶋字西表村ノ山林ニ最モ多シ崎山村鹿野川村之ニ次リ黒木ノ大ナルモノハ周回凡ソ六尺五寸桒木ノ大ナルモノハ五尺五寸ヨリ六尺五寸ニシテ孰レモ木數限ナシ

朱檀赤木檮ハ水氣多キ地ニ生シ桒黒木血樀ハ之ニ反ス

雜木ニハ榎ノ似木及ヒ福木ノ類多シ大ナルモノハ周回八九尺其他木名知レサルモノニシテ巨材モ亦タ多シ

矯今モ巡回中百日紅ノ似木ニシテ幹ニ貫ヲ結ヒ盤根薄稜秀逸シテ恰モ八歩枝ヲ横ニ建タル如キモノ及ヒ梧桐ノ似木其他ハ多ク内地ニ見スシテ異様スル能ハサルモノ也

「ヘコ」ハ諸山共多シ大ナルモノハ西表嶋ニアリ回リ七尺八寸ニ及フモノヲ見タリ

桄榔ハ最モ多シ幹ノ長サ三尺前後ニシテ回リ貳尺五六寸枝葉ハ長サ二間餘ニ及フ該樹ハ椶櫚ノ幹ニ枇榔ノ枝葉ヲ着ケタル如キモノニシテ皮毛ハ水ニ堪ヘ縄綱ヲナシ船具ニ供スベシ併シ椶櫚皮ニ比スレバ少シク硬フシテ彈力及ハス

山中ニ入レバ萱茅及ヒ山蒜菜等ハ絶ヘテナシ蔓延密生シテ擁塞登行ヲ妨害スルモノハ籐ト雜木及桄榔ノ

雛苗ニシテ之ヲ伐披スルニアラサレバ一歩ノモ進ム能
ハス籐ハ遮断短縮ニシテ其距離僅カニ四五寸ニ過キ
ス大ナルモノハ直經五歩ナルモノアリ
山勢ハ總テ嶮岨ニシテ猪逕（八重山嶋ハ猪ノ外更ニ他ノ野獣ナシ猪ハ最モ多シ）
ノ外更ニ路ナシ故ニ甚タ登山ニ苦シム然レモ孤島ノ
山脈素ヨリ幽遠ナラスシテ遠クモ山麓ヨリ二里ヲ登
レハ頂ニ達ス後來少シク樵逕ヲ開鑿セバ木材ノ運搬
ヲ為シ得ヘシ
山中巨木ノ倒レタルモノ多シ是レ暴風ノ所為之而シ
テ落葉ノ堆積スル厚サ五六寸ニシテ上面下皮ハ乾燥
シ中間ニ濕氣ヲ含ミ多クノ小蟲之ニ生ス
岩石ハ花岡質ノ鼠色ニ銀色ノ綾條ヲ斑着ス
巨艦ヲ碇泊シ木材ノ荷積スヘキ場所ハ西表嶋ニテハ
高那村西表村石垣嶋ニテハ字観音堂ト崎枝村ノ間ナ
ル海灣ト川平（カビラ）津ナリ
嶋分モ石垣嶋ノ両灣ハ實見セシカ崎枝灣ハ湲（トウヰ）ナリ
トイヘモ両岸突出シテ前ニ西表嶋ノ高嶺ヲ控ヘ防
浪ノ便アツテ船ヲ泊スルニ足ル川平津ハ周囲凡ツ
壱里半ニシテ灣中廣ク且ツ深フシテ繋船安全ナリ
トイヘモ津口漸ク十三尋ニシテ満潮ノ水深壱丈五
寸ニ過キサルヲ以テ巨艦ノ出入ニ自由ナラス之ヲ
浚鑿セハ良港トナルヘシ
土人ノ薪炭ハ山麓ノ倒木ヲ拾フテ尚ホ餘アリ故ニ為
之生木ヲ伐ラス
右ハ林相ノ概況ナリ山林法ニ至テハ之ヲ村吏頭ニ聞ク
ニ官舎ノ營繕ニ充ルノ材ハ舊來各村ニ割賦シテ採用セ

東京大学総合図書館

シメ人民ノ建築等ニ用ユルモノハ無願勝手ニ伐採スル
ノ習慣ト云フニ止マル居民寡キノ嶋嶼ニシテ内ハ需用
ナク外ハ運輸ノ便ナクシテ假令首里那覇ニ送ラントス
ルモ容易ニ回漕スル能ハサルノ時代ニアッテハ良材モ
濫伐ノ憂ナクシテ法令規則ノ設ケヲ要セストイヘトモ今
ヤ則チ然ラス海運ハ日ヲ逐テ開ケ汽船風帆ノ往来ハ相
踵キ内地商人ノ渡航ハ漸次ニ増加シ已ニ該嶋ノ事情ニ
通スルモノアリ而シテ土人平民ハ愚ニシテ良材ノ貴ヲ知
ラス朱檀ノ如キモ唯タ之ヲ雜木視シ巨材アレハ伐採シ
テ踏探ト為ス（小学教員巡回中或士人ノ家ニ休シ朱檀ノ角材ヲ土間ノ踏探トナスモノヲ見テ之ヲ
所望シ机ヲ作リタルモノアリ此板幅壱尺五六寸ナリト云フ）モ少シモ誇喜ノ色ナク之
ニ良材タルヲ諭スモ亦タ愛惜ノ情ナシ如此ノ情況ナレ
バ自然良材愛護ノ念ナク米或ハ蠟燭ノ類ヲ與ヘ之ニ伐

採ヲ命スルトキハ欣然トシテ立チ僕々トシテ命ニ奔ルヘ
シ過日鱎分等ノ乗組タル大有丸モ朱檀二本（壱本ハ一尺角位ニシテ
長サ二間許壱本ハ少シク小ナリシヨシ）ヲ搭載シテ那覇ニ入リタリト云フ
此レ何人ノ竊ストコロナルカ向後汽船風帆船ノ出港毎
ニ両三本ヲ搭載シ去ラバ素リ僅少ノ朱檀ハ忽チ伐リ盡シ
三五年ノ後ハ復タ該樹ヲ見ルアタハサルニ至ルヘシ故
ニ今ノ時ニ當テ良材保護ノ計畫アルハ所謂牖戸ヲ綢繆
スルノ策ニシテ決シテ無益ノ勞ニアラサルベシ
此報告ヲ草シ終リ熟考スルニ杞憂ノ要點ヲ縣官ニ告
ケスシテ報告スルトキハ形跡上好テ彼ノ不注意ヲ密告
スルノ嫌アルヲ以テ要領ヲ摘ミ豫シメ森大書記官ニ
告ケタレバ同官モ之ヲ理トシ至急取締ノ法ヲ設クヘ
シトノコトナリシカ一日ヲ閲シ復タ面晤シ云フ其後舊

記ヲ調査スルニ該嶋山林取締ノ規則アレバ之ヲ斟酌シテ法則ヲ設ケ至急施行スヘシト之ヲ實施スルニ至レバ濫伐ノ患ヲ免カルヘシトイヘトモ後ニ聞ケハ今回搭載シ那覇ニ入タル朱檀モ壱本ハ該嶋頭ノ齎ラス所ナリ本縣ノ犯則ハ多クハ村吏ニアリ彼等私利ヲ營ムニ不利ナルモノハ假令規則アルモ隱蔽シテ告ケサル總テ本文ノ如シ此モ唯タ口頭ヲ以テシタルニアラス書面ヲ以テ問ヒ書面ヲ以テ答ヘタルモノナリ而シテ其答ノ縣廳保存ノ舊記ト齟齬スル如此故ニ後來布達スル規則ノ效力モ亦タ如此ナラサルハ保シ難シ是以本省ヨリモ諭達シテ今回施行セントスル縣廳ノ取締方法ニ一層ノ注意ヲ促スハ目下ノ要務ナルカ如シ

西海農區報告第十號附錄

四等属山口鑄介

一イジュ木ハ沖縄嶋國頭地方巡回ノ節採リ得タルモノナリ該樹ハ本部名護其他國頭地方ニ多シ木相ハ酷タ楊（ヤナギ）梅ニ似ル國頭地方諸山ハ椎松楊梅等ト該樹ニテ林相ヲ為スト云フ大サ二三拱ノモノアリ長サモ壱丈位ハ直キモノアリテ該地方ニテハ之ヲ柱梁ノ類ニ供ス八重山嶋ニモ亦此材アリ

一倭カズ（壱名沖縄ア皮）ハ諸島到處ワタハ見受ケタリ石垣島ノ内伊原間白保両村ノ牧場及ヒ不毛地海岸等ニ最モ多シ此ノ見本ハ右両村ノ間ナル路傍ニテ採リタルモノ之舊藩ノ時ハ此皮ヲ以テ紙ヲ製シタリト云フ勸業課員ノ話ニ方今ハ該灌木ノ葉ヲ以テ芭蕉紙ヲ漉

ク糊ヲ製スト云フ「カヅ」ノ皮等ノ名アルヲ以テ若シ内地ノ厂皮ニ代用ナラスヤト考ヘ少ゝノ皮ヲ剥キ取リ見本トシテ送附スルニ付御刷局ニ託シ試験セシメ其結果ノ御一報ヲ希フ果シテ有用ナルトキハ採集方ハ縣廳ニテモ盡力スヘシ又柳元平兵衛ヘモ心配スヘク尤モ果結ノ報告ハ直ニ縣廳ニ御送附相成可然

一米ハ八重山嶋産ナリ米質ハ見本ノ通リ莖葉「ジヤレ」米ニ似テ白毛赤毛ノ二種多シ糯米ニハ黒毛モアレトモ寡シ如此粗劣ノ品位ナレハ種子改良ハ最モ有益ノ事ト被察候插秧時期七月末頃ニ苗代ヲ作リ十一月頃ヨリ插秧シ翌年六月ニ刈取ル異ナル故ニ始メ移植ニ餘程注意セサレハ所詮古種子ヲ播種スルヲ以テ生育不宜ト云フモノアリ此レ注意スヘキノ要點也

一真珠ハ八重山嶋ノ内黒嶋新城嶋等ニ多シトイヘトモ各處ニ散在シテ捕獲ニ便ナラス一日ニ二百以上ヲ得ルハ難シト云フ宮古嶋諸属島ニモ亦多シ大サ内地九州地方ニ産スルモノヨリハ三四倍ス見本ノ如シ

八重山官吏盗伐者ヘハ札ヲ下ケ其ノ盗伐者ヲ
見付ケレハ其札ヲ渡シ置キ斷然ノ示ヲ為ス
右ハ山口翁ノ話ナリトテ　青柳浩　二十五年五日

山口氏報告ノ写シヲ示シテ傳ヘ了
河原田氏ノ意見書

……重島山林ノ景
……ス
……我カ正徳年
……盗ノ計畫スル所
……ニシテ器度アリ篤
ソ程朱ノ學ヲ信シ古今ノ書史ヲ渉獵シ農政經濟ノ學ヲ治
メ本草學ヲ通達ス按擇セラレテ三司官ト為リ舊弊ヲ洗滌シ法
律租税等百般ノ制度ヲ改定シ文敎ヲ布キ農政ヲ興ス藥園
ヲ設テ清國ノ藥物ヲ移殖シ山原ニ茶樹ヲ植穀類其他農産
比較競馬會ヲ各村ニ興シ山林ヲ經緯スル秩然序アリ是ヨリ材
木用ニ乏シカラス川瀆ヲ修ル井然法アリ是ヨリ水利大ニ起リ
民其便ヲ得タリ但シ近年ハ禁伐材木濫用ヲ嚴禁スルノミニ
テ殖林等ノ事ハ心ヲ用ルヿ甚サリシ予カ首里藥園ニ移タル茄菲

東京大学総合図書館

八重山官林盗伐者ハ之レヲ下ゲ甚シ況ノ盗伐者ヲ
旦付ケレハ甚タレヲ深ク信シ漸次ノ示ヲ要ス
右ハ山口鶴介ノ稿ナリトテ　青柳方清　二十年五月

山口鶴介君西海農区報告沖縄縣八重島山林ノ景況書ヲ見テ卿カ意見ヲ述ヘテ参考ニ供ス

一舊琉球藩ニ於テ森林保護ノ法ハ護ク我カ正徳年間該藩有名ノ經濟家ニ具志頭親方蔡温ノ計畫スル所タリ蔡温ハ久米村ノ人ニテヨリ琵琶悟靈妙豁達ニシテ器度アリ篤ク程朱ノ學ヲ信シ古今ノ書史ヲ渉獵シ農政經濟ノ學ヲ治メ本草學ヲ通達ス抜擢セラレテ三司官ト爲リ舊弊ヲ洗滌シ法律租税等百般ノ制度ヲ改定シ文教ヲ布キ農政ヲ興ス藥園ヲ設テ清國ノ藥物ヲ移殖シヤンバル山原ニ茶樹ヲ植穀類其他農産比較競馬會ヲ各村ニ興シ山林ヲ經緯スル秩然序アリ是ヨリ村木用ニ乏シカラス川瀆ヲ修ル井然法アリ是ヨリ水利大ニ起リ民其便ヲ得タリ但シ近年ハ禁伐材木濫用ヲ嚴禁スルノミニテ殖林等ノ事ハ心ヲ用ルコト甚サク予カ首里藥園ニ移スル茄菲

其他二十八種ノ樹苗ヲモ切捨タルカ如キ姦吏アリ其他樹苗ヲ
植付ル等ニ心ヲ用ユルモノナシ然レ𪜈右具志頭ノ定メシ褒賞ノ
條例面條ニ官林ノ外土地ヲ定メ自費ヲ以テ樹木ヲ栽植シ
國用ヲ為スニ至ル者ハ或ハ越階ノ位ヲ授ケ或ハ物品ヲ与フヘシト
アリ

一八重山島民ニ山中ノ模様ヲ問フ時ハ唯答ルニ不知ヲ以テスルト云是
ハ沖縄縣下三十二島一般ノ風俗人情ノシカラシムル所ニシテ熟知
スルコトヲモ知ラスト云トスルハ能ク人ノ知ル所ナリ而シテ其原因スル所
アリ又之ヲ問フノ策アリト雖𪜈長談ナルヲ以テ之ヲ略ス

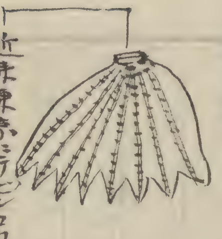
一路傍等人目ニ觸レ易キ場所ニアル朱檀ハ土人ノ戯ニ傷ルヽ
ノ由記載アリ又朱檀ノ貴キヲ知ルモノナキ旨ヲ記載アリト雖
𪜈廢藩以前ハ此朱檀ヲ神木ナリトシテ傷クルコトヲ怖レタルモ
ノナリ其故ハ鮮血出ツルト云フコトアリ島人山神ヲ祭ル嶽ヲ祭

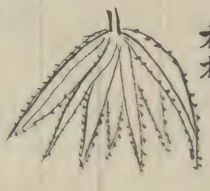
ルト云ヒ是等ノ樹木ヲ嶽ノ木トス是ヲ以テ考ルニ去ル十三年来郵便滊
船ノ往復スルヨリ内地人ノ所為ニ出シナラン蓋シ目今ハ島民モ亦傷
ルニ至リシヤ否乎

一梧桐ニ似タル樹木トテフハ蓋シ梯梧ナランカ

一八重山島ノ内平仲原間両村ノ黄楊ハ恐ラクハ月橘ナランカ
該樹ハ慶良間以南ニハ之レ無キモノト思考セリ已ニ去ル十三年
久米宮古両島巡回ノ警部某久米島ニ黄楊ノ多キヲ聞キ該
島ニ至リ実見セシニ警部ノ見タル黄楊ハ皆月橘ニテアリシ也
蓋シ此月橘モツゲノ類ナランカ此樹ヲ以テ櫛ヲ作ルニ細微ナル
ヒヾワレ出来テ黄楊ニ代用スルハ甚タ難シトスシカレトモ琉球人
ノ下等輩ニ用ウルハ皆此ゲキツナリ琉人ハ黄楊ニマサルモノトセリ故ニ此本

ヲ「ヂー」ハノ木ニ云フ「ヂー」ハトハ笄ト云フコナリ
一「イジユ」ノ木トハ鼠(ネヅミ)ノ木ノトニ云フコナリネヅミヲ「ウツヘンナユ」ト云ヒ
邉土ノ者ハ「ウツヘンジユ」又「イジユ」ト云フ尚考フベシ此「イジユ」ノ木ニ葉
ハ去ル八年予カ博物局ニ送リシ中ニモアリ
一桄榔(クロツグ)ニ似タル種類ヲ左ニ記シ而シテ桄榔(クロツグ)最モ多クアルモノ
ヽ参考トス


高久葉(タカコバ)
近来東京ニテビンロウ樹ナリトテ中ノウツロナル材ヲ見ルニ此高コバナルト考フル


檳榔(ビロウ)

桄榔(クロツグ)

赤ツク 棕櫚ノ若木
琉方言一名シユログワア
グワアトハ小ト云フコナリ、假令バヲカサンヲアンマトモ云ヒ若キ
ヲカサンヲアンマグワアト云フ子供ヲスグワアレト云ヒ其他皆然リ

一山中ウラジロ等ハ絶ヘテナシトアレ氏先年三尺八寸ノウラジロニシダヲ得シコアリ尚可考ノ是ツシ久ハ溪谿ニアリ藤山(ハダカ)ハ高キ所ニアルモノト思リ
一八重山ニハ猪ノ外野獣ナシトアレ氏鹿兎ヲ獲ルコハ先年来藩吏在勤ノ者ノ獣狩ニアリ
一八重山島ニ於テ船舶ヲ碇泊セシムルノ要地ハ西表島(イリオモテ)ノ内離島ノ港湾ヲ第一トスベシ尚海路港湾ノコハ水路頭柳猶悦君ノ南島水路志及ヒ海軍主測図ニ譲ル

明治十六年十二月廿四日午前四時
河原田盛美識

チ「ギー」ハ禾ヲ云フ「ギー」ハ「ド」ハ笄ト云フヿナリ

一イジユノ木トハ鼠(ネヅミ)ノ禾ノトイフヿナリネヅミヲウツヘンニユトイヒ

邉土ノ者ハウツヘジユ又「イジユ」トイフ尚考フベシ此イジユノ子ニ葉

ハ去ル八年予カ博物局ニ送リシ中ニモアリ

一桄榔(ツグ)ニ似タル種類ヲ九ニ記シテ桄榔(ツグ)最モ多ニアルモノ

ヽ参考トス

一山中ウラジロ茅等ハ絶ヘテナシトアレ氏先年三尺八寸ノウラジロニシダヲ得シヿアリ尚可考ウラジロ旦ツシダハ溪谿ニアリ藤(バタグ)山ハ高キ所ニアルモノト思リ

一八重山ニハ猪ノ外野獸ナシトアレ氏鹿兎ヲ獲ルヿハ先年来藩吏在勤ノ者ノ獸狩ニアリ

一八重山島ニ於テ船舶ヲ碇泊セシムルノ要地ハ西表(イリモテ)島ノ内離島ノ港湾ヲ第一トスベシ尚海路港湾ノヿハ水路頭柳楢悦君ノ南島水路志及ヒ海軍実測図ニ譲ル

明治十六年十二月廿一日午前四時

河原田盛美識

沖縄 チャンカニー木

葉背白色光澤アリ

雲母ノ如シ

○蕉葉林藻之景況

與論島

一 介ヲ陽ハ風ニ揚ヱハ又海辺ニ行拾集

半年位ハ保ツトモヲ量ニホウむメラカ

一 百草ヲ芭テ風神ノ葉ト為ス勿ル

二十年十一月本田記故老ノ話

チヤンカニー木 沖縄地方ノ名

此樹ハ林氏分類廿一綱十目自然分類大戟科巴豆属ノ植物ニテ枝葉共ニ褐色ノ細点アリ葉背雲母色ヲ呈シ一見スレバ其状欸胡頽子科ニ属スル者ノ如キモ該樹ヲ目撃セシ人ノ説ニハ実ハ純然タル大戟科ノ徴候ヲ具スト云然レ𪜈予未タ其花実ヲ親見セス又学名ヲ詳ニセザリシニ近日魯國大学ノ生物雑誌ヲ見ルニ該樹ノ羅甸名ヲ*Croton cumingii, Müll.*ト出セルヲ以テ始メテ其所属ヲ詳ニスルヲ得タリ 其性質効用ノ如キハ未ダ之ヲ詳ニセザレ𪜈該樹ノ如キハ我邦ノ著書ニハ未ダ記載スルヲ見ザレバ之ヲ爰ニ出シテ以テ同好ノ人ニ示スト云

明治廿一年十月廿四日

藤野寄命記

コミカンボク 沖縄産

コミカンボク 仮称（コミカンサウ 葉珠草又名葉下珠ニ對シテカク名ヅク）

此樹ハ「ワイト氏」東印度植物図説巻五ニ載スル *glochidion ellipticum, R. W.* ニ似タレ𪜈判然セザルヲ以テ曾テ博物館ヨリ魯國ノ「マキシモウヰツ氏」ヘ質問セシニ *Phyllanthus (glochidion) Wightii, J. Mill* ニ近キモ腊葉ハ完全セザレバ確答シ難シト云ヘリ 此品ハ植物名実図考十巻十二葉ノ野南瓜ノ図ニ酷似タレ𪜈其説ニ至テハ符合セザルコトアリ 姑ク疑ヲ記シ以テ期他日之再考

明治廿一年十月十四日

藤野寄命 記

アダン之説

アダン 阿旦尼ト書ク 草アダン 木アダン トアリ 草ハ即 蘆薈（Aloë）ニシテ薬用ノ物品ヲ産出スル植物ナリ 又木アダンハ 即チ 露頭樹ニシテ 又林投トモ云フ 小笠原島ニテ タコノキ トモ名ク 是本幹ヨリ多クノ枝根ヲ出シテ地ニ入リ根ヲ生シ本幹ヲ護ス 其形恰モ章魚（タコ）ノ脚ヲ垂ルヽニ似タリ 故ニ此名アリ 羅甸名 *Pandanus* 英名 *Screw pine*（螺旋形風梨（アナナス）ノ葉ナリ）トテ此葉ノ形風梨（*Pine apple*）ニ似テ螺旋形ヲナシ幹ニ着クニヨリ斯ク名クモノナリ

右タコノキハ 其枝根ヲ以テ纖緯ヲ製スベシ 又葉ハ長闊強靭ナレドモ裂キテ席ヲ編ムベシ 船帆ノ アンペラニ異ナラズ 但シアンペラハ 椰類ノ葉ニテ タコノキノ葉ニ非ス

又此葉ヲ以テ強靭之繊緯ヲ製スベシ其繊緯ハマニラ
ニ甚タ類セリ又鳳梨モ其葉ノ繊緯甚タ良好ナリ
是ハマニラト同種類ナレバ直ニマニラト差違ナシ
原来マニラハ呂宋ノ都名ナレモ此繊緯ヲ多ク出スニ
ヨリマニラヤープ（アナナス）ト名ケ略シテマニラト呼ブ此繊緯ハ
全ク鳳梨類ノ植物ノ葉ヲ以テ製スルモノナリ故ニマニラノ
代用ヲ製セントセバ鳳梨ヲ主トシ又タコノキヲモ用ベシ
マニラハ盛ニ産出スル繊緯ニシテ船具ニ多ク用フ但麻ニ比
スレバ下等ナレ氏価ノ廉ナルヲ以テ雑用ニ充ツ各国艦船ニ用ヒ
ザルナシ我海軍省所轄横須賀造船所ニテモ多ク用ユ
ルモ麻モ用ユルナリ此外亜米利加蘆薈（アロエ）ノ葉ノ
繊緯モ同様ナリ新西蘭麻ノ繊緯ハ此類ノ最上品ナリ

明治十五年十月十八日　田中芳男記

八重山島紫檀樹ノ説　田代安定述

八重山嶋ノ紫檀ハ荳科喬木中羅甸名プテロカルプユスノ
一種ニシテ即チ印度紫檀ト同属ナリ此木ハ本嶋ニ於テハ石垣島
ノ西北部ナル野底村及ヒ伊原間村ノ山脈中殊ニ野底女冠
岳以北ノ山中ニ於テ目撃ス今其生長ノ状ニ就テ見ルトキハ古来
本島ノ自然生ニシテ他地ヨリ移植セシモノニハ非ザルベシ其生
育ノ場所ハ或ハ山腹渓間或ハ山脚雑木林中ニ混生シ地
位ノ高低ヲ以テ云フトキハ或ハ海面ヲ抽ク僅ニ拾余尺或ハ弐三
百尺ノ部分ニアリテ更ニ地位ノ高低陰陽土質ノ厚薄
乾湿ニハ関セザルモノヽ如シ但ダ前説ノ如ク目今其生育

スル地域ニ於テ畧ボ定限アルガ如キハ未ダ本員ノ研究シ能ハザル所ト雖氏必シモ定限アルニ非ズシテ未ダ種子ノ塵リ蔓延セザルモノヽ如シ蓋シ紫檀樹ノ種子タル荳科植物中自ラ一種ノ殊標ヲ具ヘ其莢扁薄ニシテ蝶羽状ヲ為シ中央隆起シテ内ニ両三核ヲ収メ莢ノ筋脈巻曲シテ核ヲ察離シ其組織稍々萌発力ヲ抑制スルノ状アリテ他ノ植物ノ如ク樹下ニ就テ其穉苗ヲ見ルヿ極メテ稀ナリ又タ風雨禽鳥等ノ此種子ヲ移散シテ之ガ繁殖ヲ媒助スルコト尠少ナルカ故ナラン是ヲ以テ本樹ハ本嶋ノ風土ニ適應シテ即チ本島ハ檀樹畧ボ中ノ一部分ニ居ルト雖氏其繁殖ノ遲鈍ニシテ高木今日ニ稀少ナルモノヽ如シ且ツ本島ノ山林ハ他地ニ比スレバ概シテ創造ノ年齢皆ナ幼穉ニシテ千年乃至五百年以外ノ老樹ハ尠キガ如シ即チ此紫檀ノ如キハ往々大木アルモ其年齢ヲ以テ論スル片ハ過半數百年乃至百年以降ノモノニシテ其自生ノ濫觴尚ホ久シカラザルモノナラン己上ハ只タ自己ノ臆説ニシテ植物性理学上ノ点ヨリ論評セバ更ニ明瞭ノ理解アルベシ

本樹ハ本嶋ニ於テハ常葉喬木ニシテ春分新葉ヲ更生ス其葉ハ單鬚状ニシテ毎葉六七八九個ノ尖頭楕圓小葉ヲ互生シテ成ル全葉長サ七八寸乃至壱尺許ニシテ形状槐葉又タ関

東ノ山中ニ生スル「フヂキ」(槐属)等ニ類似シテ質薄実ニメ微
光沢アリ樹性直上シテ多クハ一根一幹或ハ稀ニ岐幹ヲ
為スモノアリ枝條扶疎トメ四散シ葉頭傾垂シテ状婆
娑タリ本樹ノ幹皮ハ灰赤色ニメ厚ク粗縦襞アリテ表
被剥ケ易ク裏皮ニハ猪毛様ノ皇線アリ之ニ傷クレバ直
ニ赤液淋漓宛モ血汁ノ溢ルガ如シ此液汁空氣ニ觸
レバ直ニ凝結シテ壹種ノ護謨ト為ル即印度ノ龍血又
タ洋薬名「キノム」ナルモノ是ナリ故ニ本樹ハ深山中ニ在リト
雖氏幹皮ヲ一目メ直ニ他樹ト判別スルヲ得ベシ但タ幹
皮ニテ他樹ノ是ニ近似スルモノハ先ツ「ハゼノキ」ト本島方

言「カハライヂユ」ト唱フル木ナリ殊ニ「カハライゲユ」ハ人ヲメ
往々紫檀ノ幹ト誤認セシムルノ恐アリト雖氏其木皮ハ傷
テ赤液溢流セザルト其葉形ノ全ク異ルヲ以テ判シ得ベシ
且ツ此木ハ大戟科中「カニクーキ」ノ一類属ニメ固ヨリ採ル
ニ足ルベキ用材ニアラザルベシ
本嶋紫檀ノ材ヲ論スレバ其敍理ハ印度地方ヨリ輸入セ
ル紫檀ト畧ホ仝様ニメ色彩ハ淡赤殷紅並褐色等
各々樹ノ年齢及ヒ其所地等ニ従テ壹定セス又印
度紫檀ニ比スレバ概メ色彩淡稀殊ニ光沢ニ乏キノ
誹ヲ免レ難シト雖氏時アリテハ一種模擬ス可ラザルノ

艶美紅色ヲ呈シ彼ノ花櫚材ニ彷彿タルモノアリ但ダ印度紫檀ノ如ク暗紫黒色ノモノ稀ナルハ抑々種類ノ異ナルモノカ又タ樹齢ノ未ダ満タザルモノカ知ル可ラスト雖氏我ガ版図内ノ木材中ニテハ先ツ最佳ノ優良材ト称セザルヲ得ス加フルニ其樹性直聳シテ数尋ノ大材ヲ得ルニ難カラサレバ将来我ガ宮殿艦室等ノ装飾諸用ニ必需ナリ艦室ノ装飾ニ於テハ彼ノ排花心木及ヒ「アカヒニ」材等ニ代用スベキノミナラズ却テ其上位ニ坐スベキモノナラン

抑々紫檀黒檀及ヒ蘇木等ノ材ハ皆ナ外部白色ニシテ内部ニ其本色ヲ有シ殊ニ黒檀ノ如キハ樹ニ因テ黒色部ノ多少著ク異ルモノナルガ今マ本島ノ紫檀ニ就テ実験スルニ大抵弐尺囲已上ノ枝幹ニシテ材心ニ紅色ヲ有セサルハナク大抵外部壹寸乃至二寸許ガ白色ニシテ其内部ハ総テ紅色ナルヲ常標トス又タ材理ノ粗密ニ於テハ中心稍軽粗ニシテ裂ケ易ク其外囲ハ密実ニシテ色彩濃厚ナルガ如シ

本嶋ノ紫檀ハ世上ニ播布スルノ日尚ホ浅フシテ之ヲ使用セシモノ尠キヲ以テ其品格ノ如何ヲ詳ニセズト雖ヒ植物学上既然タル紫檀樹属即チ羅甸名「プテロカルプユス」中ノ一種類ニシテ殊ニ其材質前陳ノ如クナレバ従来本樹ノ需用尠ニ止ラスシテ其繁殖ヲ謀ルノ要務タルハ論ヲ俟

ノス

十九年十月二日東京山内高山下堂ヘ上ス右應[illegible]
十一月[illegible]

田代安定氏土産　十九年十月十七日

八重山島土人器物ノ一　七号

此ハ白茅ヲ乾シ芯ヨリ束子テ（トウヅルモドキ）ニテ縛シ製セシモノニテ土人一般ニ此器ヲ用
飯ハ米入トナシ或ハ上布ヲ織ルニ苧ノ麻糸入レト為シ或ハ食物入レト為シ其他種々ノ使用アリテ形チモ亦種々ニ異レリ今失ニ持来ルモノハ嶋[illegible]米ヲ入ルヽ器ナリ

蒲葵ニ弱　四枚

宮古島産土人ノ細工ナル如斯朴質

紫檀及縄算

麻布 地丈一尺寸 三丈 一反

此ハ八重山島管内ノ与那国島ノ粗布(?)
麻布ニテ同島貢布中ノ一ナリ此島ハ八重
山石島ヨリ四十餘里西方臺湾ノ部分
ニ近接ス此度ハ安定(?)此島丈ケニ行カス
此島ハ七島餘ノ小島ナル民風俗ハ八重山
各島ヨリ耶(?)ニ開ケタルトニフ此布ハ印ナ
同島婦人ノ手織品ニシテ之ヲ[illegible]ハ日(?)常
ノ苧麻ナリトニフ

紫檀材ノ 厚サ一寸五分 八重山島管内
板材片 幅四寸八分 丈二尺五寸八分 石垣島 此方 山中自生 一枚
洋名 Pterocarpus sp. (Légumineuses; arbre) (Pter. draconum(?))
此ハ八重山島ノ内石垣島野底村近傍ニ聳起
セル山岳中ノ山奥谿間ニ自生スル大樹ノ枝
材ニシテ今度巡回中ニ採伐セシモノナリ其色
伐テ数旬間山中ニ倒シ置ケハ漸次枯ルニ
従テ紅彩ヲ生シ来ルナリ又タ生木ノ伐リ
見ルハ中部ハ甚シキ淡紅色ヲ呈セリ而シテ
伐リシ際一旦淡クサメテ又タ枯レテヨリ紅色ヲ増スナリ

東京大学総合図書館

紫檀材ハ八重山島々管内
枝材ハ石垣(いしがき)島山中自生
洋名 Pterocarpus sp. (Pte. Draco Linné)
Leguminosae (arbre)
此ハ八重山島ノ内石垣島野底村近傍ニ
聳起セル山岳中ノ山奥谿間ニ自生ス
ハ大樹ノ枝材ニシテ今度巡回中ニ採伐セシモ
ノナリ其昔ヨリ伐テ数年間山中ニ倒レ全ク腐
朽枯ルヽニ従テ紅彩ヲ生シ来ルナリ又々
生木ノ際伐リ見レハ中部ニ甚シキ美紅色ヲ
呈セリ而シテ伐リシ後一旦浅クサメテ又枯テヨリ紅色ヲ増スモノ

縄筭見本

此ハ八重山各嶌一般ニ用ユル筭字ニシテ同嶌ヨリ用萬事此筭ニテ辨ズ土人此ヲ藁筭(ワラザン)又タ縄筭(ナハザン)ト云即チ文字ト筭盤ニ代用スルモノナリ此品ニテ戸籍帳、人夫帳、貢租割賦簿、懲戒標、募集品、購求帳、其他総テノ用ニ為サヾルハナシ而シテ其元質品ハ専ラ藁、蒲葵葉、及ビ野葡萄蔓ヲ用フ而シテ戸籍、人夫、并貢租簿等ニハ藁ト蒲葵葉ヲ用ヒ懲戒標ニハ多ク野葡萄蔓ヲ用ユト云

明治十九年十月九日

田代安定記

ロ印ハ已ニ同種アル分

田代安定持来　琉球産博物見本品目

一猪頭骨　完備ノ者但シ上顎ノ牙壱本欠ケ他ニ一本ノ牙缺ケアリ　壱個

一鳥羽　鷲ノ羽　壱個

一野雁羽　二個

一ウニ刺　磨滅ヒ者　二個

一？瓢　八重山土人水杓子　壱個

一メカワク樹皮片　ロタリレガミ　数十片

一ヒハツ実

一通脱木ノ樹心　壱個

一扁平大実　九個

一ハリナス実　壱個

一ワニグチモダマ莢ノ実　二個

一樹皮十片　壱個

一「ジユズ」ノ実　壱個
一芭蕉実ノ実 小形ナリ　二個
一「ヤシ」実ノ如キ者ノ磨滅セル品　壱個
一「カヤシ」実ノ如キ者　壱個
一「やし」実磨滅セル者　三個
一「ヤシ」実 小形　五個
一「ニヅヤシ」実ノ片　二個
一「コバンノアし」さし　二個
一タコノ木実　三個
一芭蕉実ノ葉繊維及製織種　各壱束
一根 小キ方　三個
一クーロー根 大　壱個
一ハマヲモト種實　数個

一「サノコミカケ」実三種　三個
一小石三種　壱包
一石塊二種　二個

○印アル者ハ博物館ヘ送ル但シ◎ハ全部ナレモ一手ヲ分ケシモノ

明治二十年十一月廿三日　往田侯之郎之分個

蒲葵扇

宮古島産土人ノ細工凡ク如斯朴質不十分なら　田代録

クーロー根　青乃田代安定記

土茯苓科

Smilax sp.?

此ハ八重山各島山中ニ自生スル一種ノ蔓草ニシテ此根ヲ切レバ赭赤汁ヲ出ス土人此ヲ以テ上布ヲ染ム其色(ベニインギリ)如クナルノ褐赭ノ帯ビ久キヲ経ヘテサメス花実ヲ未ダ撿セザレバ属名未詳乞氏是正書籍又ハ西洋諸国ニテモ見タルコトナシ本草綱目ノ赭塊ハ多分此品ナルベシ

[illegible]

蒲葵扇

[illegible]

シーヨー [illegible]

土灰 [illegible]

一　物ハ聖人土[illegible]ヨリ[illegible]

[illegible]ヘ此[illegible]ヲ[illegible]人[illegible]

[illegible]土人[illegible]光人[illegible]

[illegible]人[illegible]

明治十[illegible]年[illegible]月[illegible]

草書弄辞[illegible]下問ノ
大島ニ[illegible]沈香ヲ能常ニ珍
本ニ[illegible]細ノ地ニハ多分[illegible]
芝[illegible]年露国ニ[illegible]乾燥葉[illegible]
種[illegible]名ハ製セシ[illegible]
大戦料　蚕[illegible]木[illegible]
ノ箱[illegible]
其ニ代十銭[illegible]安價[illegible]
何ドナレバ香気アルハ枯根節ノ後
水ニ洒サレテ脂気ノ凝結シタル[illegible]

琉球沈香
二十三年五月
河原田[illegible]

八重山島土人器物ノ一

此ハ白茅ヲ乾シソレヲ束子ヲ
「トウワンモドキ」ニテ縛シ製造セ
シモノニテ土人一般ニ此器ヲ
用ユ或ハ米入レト為シ或ハ
上布ヲ織ル[illegible]苧麻糸
入レト為シ或ハ食物入レト
為シ其他種々ノ使用アリ
テ形チモ亦多ク色々ニ異ナリ
今此ニ持来ルモノハ搗キタル米
ヲ入ルヽ器ナリ　又

明治十九年十月上旬　田代安定記

本郷區
金助町壱番地
田中芳男殿
本郷追分町[illegible]番地
田代安定

郵便はかき

此表面ニハ宛所姓名ノ外認ムヘカラス

五月十[illegible]夜

琉球泡盛
二十三年
[illegible]

餘リニ食セス。大島邊ハ嗜好スル人多キヨシナリ

芭蕉

琉球人。及ヒ大島ニ久シク居住シタル人ニ聞クニ。果シテ食セリト。是ハ善ク花ヲ着シ。善ク實ヲ結ヒ。又織リテ布トナス三種ノ外。別ニ一種ノ食料トナル品アルニ非ス。其種類ニ拘ラス。新芽ノ長サ四尺位ニ暢タル莖幹ヲ伐取リ。外皮ヲ去リ。輪切ニシテ。ウデ、ハ漬シ物ニシ。或ハ味噌ニ和シ。他物ヲ混シ。ヌタトシテ食ス。薄切リヨク。甘味アリテ。随分食ハレル者ナリト。琉球ノ那覇首里ハ。餘リニ食セス。大島邊ハ。嗜好スル人多キヨシナ

リ。然レトモ芭蕉蘇鐵ハ。琉球諸島ノ人民家産ノ一ニシテ。其所有ノ多寡ヲ以テ貧富ヲトスル位ナレハ。成長セシメテ。蕉布トナス方。利益アルニヨリ。容易ニ伐取リテ。食用トナサスト云ヘリ。

東京大学総合図書館

右條ハ国籍ヲ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

并琉球ノ [illegible]

[illegible]

リ。然レ圧芭蕉蘺鐵ハ。琉球諸島ノ人民家産ノ一ニシテ。其所有ノ多寡ヲ以テ貧富ヲトスル位ナレハ。成長セシメテ蕉布トナス方利益アルニヨリ。容易ニ伐取リテ。食用トナサスト云ヘリ。

二十年 三月廿六日 [illegible]

[illegible]

（琉球ヲ [illegible] 外 [illegible]

[illegible]）

田井

此篇ハ特ク貴地ニ停留
見えてもノ夫々出ての事
有難く存候
去る頃　　　松本村の
田中生より
菜野球ノ写真ト
那覇帰人ノ写真拾帰りて
目出度覚ニ入テ下サ[illegible]

キレヤハ　チレヤウ
△喜舎場英拜
トモ云

○琉語ノ仮名
ウニヌサ[illegible]

琉球物産話ノ一斑　九月某日夜来会ニテ記ス

明治三十三年九月十八日　本郷町学友会ノ陳列アリ、
来テ沖縄県八重山島前島長西常央氏ノ子富長
一名ヲ同道シ来会セラル　同島ノ話ノ中　同氏ノ分レノ属
ノ最好ムト見ヘ挨ツ来テ話興アリ

一　ウニヅ　長一尺余　直テ分モ　琉球ノ物セ　[illegible]
十分モ[illegible]ノ[illegible]　十三年　十八己　[illegible]ノ
一　海十尋位ノ処ニアリ　捕ヘハ[illegible]　[illegible]ノ[illegible]　方言
○[illegible]（[illegible]ノ[illegible]ナリ）
一　貝子　ハ十五種　[illegible]　小児ノ[illegible]　[illegible]

一 同島西目生平
沿岸ノ内郭ニ多ク
此ニ帆ヲ用フ
一

色ニシテ周囲ニ淡褐ノ輪帯ヲ内面ニ二三ノ横條アルハ一子個ナ
御ク一尺足ラズ也トスナリ

一 千手介
堀旋貝近リ

如此太サノ尖錐形ノ螺ニシテ長
ニシテ外面ハ分レテ凹凸モ是ハ
千手介ノ名アリテ千手ノ数ヲ備フノ説同ニヨリ蔣蘭モ
嬉乳ノ中ハ三個アリテ例セ生テ暴風浪ノ時ハ綿
有ト云フ今デハ海中ノ綿ニ堂ノ上ニ生スルトモ綿人エノ
ニテハアリモ色ハ暗褐汀礫ニテ黍ヨリ又粗屑ナル外ニ
其ニ島似テ較勝レバ之ノ形ニ較大ナレトモ
尤今無儘ノ皆ハ東ニ良イフナシトスナリ

△ハテルマニ在也
其モアリ

一 タケノコガイ 三四ノ内赤褐色ノモノハ厚重大ニシテ容
島ニ烟管ニ作ルモ他ノ二品ハ脆クシテ素人（細工）ハ難シ
一 イシノフン ハテルマ村ニ多シ△（此村ハ波照間村トナリ一島ニテ
東西ノ諸村間島ハ西北隅ニ南西ノ最端ナリテ端ナリ
名ヲ写シ旧島ノ洞ニハ古言多ク残リ此島ハ三四島ハ此群ノ
島中ノ最古キモノナレドモ人民ノ要強セン浮ナルカ旧多ノ村（九ケ村）
アレモ今ハ一村ニテ昔ノ村ノ跡ハ田ト（ナリ）其人ノ残之ハ他島へ
移住セシト或ハ又流行病ノ為メナリトモ云） 輸セ石中ニ
棲ム故ニ石ヲ割リ其ヲ太サ拇指ノ較大ニシテ白質長クシ
取ル乃チ居長サ一尺ニテツヽガキノ筒ニ似タルナリ

東京大学総合図書館

△生活ノ時ハ
口ニハリアリ然ルニ
乾クニ従ヒ去ル

守ヲ堅実故ニ魔ヲ去ル瑪瑙麦齊ナリ　二種アリ　一ハ内中ニ
珠アリテ節ナクナシ　節毎ニ珠アリ　△故ニ升ヲ思ヒ節ノ如キ形アリ　一ハ
内空ニシテ筍ノ如ク　但シ末端ニ珠アルカ如シ　中ハ（かかり）蛇ノ如キ形
ナリトヘリ　八重山島ニハ多ク産ス　海岸ノ石間ニ多ク産ス
[illegible]アリ　又用途ナシ　捕ヘハ容易ナリト　挟ハリヲ以テ日曝セシカ
一　[illegible]ニ似テ内面褐黄　蓋ヘ赤黄色ニシテ美ナル條アリ　共細條ノ觀ト
見ユ　共細條ヘ三日[illegible]アリト思ヒテ[illegible]二[illegible]アリ　[illegible]ノ[illegible]ノ小
[illegible]ノ[illegible]リ
一　細孔ノ満ツル珊瑚ニ其ハ赤珊瑚ノ海中ニ枯死セル他ノ虫ノ處合
スルモノト思ヒニ鮎アル一種粗ナル珊瑚（りゅうきゅうさんご）ノ幹ナリトアリ

河原田四出素彦ノ
ニ依ルモノナルニ
云フ

絶ヘ上キハ生年　康熙五十四白[illegible]昔雲氏カ琉球大島ノ[illegible]ト
[illegible]セリ如何ナリカ　西氏曰此石ハ影深ナレハ露中深ク捨ヒ
ニ大ナリ露中上久シ　之瑠璃美麗ナリトヘリ
一　河豚ノ上顎骨ノ直ニ内中ニシテ一犯層ヲ重ネ堅実ノ骨ハ是此
海辺沙中ヨリ拾フコトアリ　白色アリ　紅色アリ　大小不同　大ナルハ
招頭ニ近シ　形ハ介ノ肉柱ヲ乾シタルカ如シ　扁平ニシテ横長ク又
中央ニ溝アリ　其左右二個ノ分界アリ　是ハ何人ナリヤ
知ラス　常ニ疑ヲ存スルニ或日大カ手ニ齎シ河豚ヲ持来シ
テ遊ヒ上顎内ニ骨アルコトヲ知ル　河豚ハサハフグ　ミアリ
是ハ何カノ効用アルヘシ

△味常品ニ同シ
二月三月ニ多ク
四月ニ少シ

○珠母ハ珠ヲ出ス

一夜光貝 特殊品録 コレモ又ノ介ナリ小サク且ツ肉合薄
五寸モアル者アリ 摩シテ螺鈿ニ用ユ 珠ノ平生スルモノ
アリ [illegible] 大ナルモノ 小ナルモノ方 緑ノ色ノ方 鍍剤ナリ 其肉
肉大ナルハ食スベシ △捕ルハ幾個モアリ 容易ナリトス
一珠母ハ海中ノ石ニ付大ナルモノ 但シ此ノ諸島ニ 其数少ナク 看アリ 此
方ニハ珠母アリ 大島辺マデノ方 珠色 マデノ数ノ多キ所
ハ厚サ三寸 長サ一尺ノ切リ 細工トテ作リ 多ク売出セル 近世多
ノ職工カ此所ノ多クアリ 勝手ニ切リ 鈕釦ヲ作ルモノ
其職工ノ居ル地ハ大崎村ナリトス
一書記所 之ハ本 珠母殻一斤ニ付 一銭以上ナリトス

牡蠣ハ肉ヲ食シ殻ヲ
焼キテ石灰ノ原料トス又
石灰トナシテ売ル
又甲モトテ
琉球ニテ多ク産ス

一海綿ハ海中ニ生シテ珊瑚虫ノ巣ノ中ノ如ク 殊ニ大ナル
モノ有ル ハ ウニノ如 捕リ 山ヘ持行キ 猪除ケニ用フ
晒シテ 白クナリ 之ヲ イシマ中トスル 即 ウミ マヤ ナノ 山ノ
海綿ハ中 トテ 製スルハ 此ノ島ニ 久米島ヨリ来ル 日島
ハ近年 貢租ノ中ニ入ルコトアリ
海馬ハ儒艮ナリトノ コハ 近年御 定メ所ナリ 日島ヨリ
日氏ノ 取リ 表面 裏面 側面 皆其ノ皮 同様ノ皮
其ノ皮ハ 長サ 西洋皿ヲ取ル 活物ナリトハ 異ナル
コレテ日氏ニ獲ル 鱗ニテ居レリ
石敢當ハ割リテ 二三寸 四五分 乗セテ 食スルニ堅シ

一 西ノ方海中ニ一島アリ イシコニコバニマトヨフ イシコシトコバシコ
ニテ且堅ヲ以テ磁石ヲ船舶ノ碇着スル時多キヲ以テ
其町皆吸着スル 錨着テアリ 無人島ニテ船ノ碇着
スルナリ 此島ニ磁石アルヲ知ルニ 方針(ハコバリ)逃ノ救スル 磁鉄ハ
生スルナリ 其文カ碇着スル 支那人ノ得ル処ナリ 支那人ハ此島ニテ
番アリト云モノ人了アリトゾ 其島ニ水晶ノ塊アリテ細キ
モノハ沢中ニ之アリ 其石ノ山等ニ 鉄ヲ以テ此ノ石ニ着ケルノ彼
是ニ物無キナリト 此山ハ キニサグトヨブ 銀ノ了黄金ハ刃ヲ
トヨフ云々

一 曲玉西部ハ 沿辺関島ニ於テ是ハ什蕃スルノミナリ

陸兼ヲ守ルノ二世ト云

一 キニツキサノ氏名ハ 那覇ノ学校ノ名堀ノ名ヲ云ヘ
日本近キテヨリ云ヘトモ 書ノ文ノ学生来学ナリ
又他ノ吟味以テス

一 八重山島ハ 煙草塩ト酒ノ製スルヿヲ禁ス 又之ヲ
救ニ売ヲ 土人ニ売ニ 何者ヲ知ラス 十九年ヲ初テ禁
シ解テ 不残済ナリ

一 西洋ハ 島ノ利益 掛ノ針路ナリ 心得テ居ル
海馬ノ利益ノヿカ得ト言ニテ 余ハ此ノ聚備ス
ハ以テ 困難ナルヘキヲ考ヘナリ

一　汁儀ニテ　査子細　実語陽子ノ脱本ヲ又博物學
トスル　提書ノ脱本ヲスル事

八重山ノ結縄ヲ見テ
水韻　精衛君曰　彼島ニ　タミシツウ　トニフアリ　盲人ガ
紙撚リヲ結ビ　其結ビ方ニテ　文字ニ代ユ　一ツ結ハ何ニテハ
何ノ大小アルハ何ト　四十八字ニ　取定メ夫ヲ読ムトニフコト
新阿西横堀ノ　林前トニフ　書肆ノ　主　林前トハ　頭彦ノ裏
手ノ海屋ノ名ヲ　林前トニフ　長老ノ遺文ニヨリ　又東京ヲ
麹町平川天神ノ脇ニ住ム　堀野　金鶴　トニフ人ニ聞シニ
東京ニテ之ヲ知ル人ノアルハ　是ヨリ外ニ無シトノ話ナリ今ノ人ハ
右金鶴ノ定ヲ知ル人ナシ　云々
明治二十年三月二十五日
田中芳男記

紙儀板

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館

付属物 東京大学総合図書館